

平成 21 年度 環境教育関連事業の実施結果

環境教育を進める取り組みの柱

札幌市環境教育基本方針で定めた 4 つの取り組みの柱

人材の育成	情報の共有・活用
プログラムの作成	機会づくり・場づくり

(1) 人材の育成

環境教育リーダー・環境保全アドバイザー派遣（一部報告済）

「総合的な学習の時間」や市民の環境に関する学習会などへの助言や解説等を行う人材を派遣する「環境教育リーダー制度」と、8 つの分野の専門家を、市民の観察会や学習会等に派遣する「環境保全アドバイザー制度」を実施しました。

[派遣実績＜件数（ ）内は利用者数＞]

	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
環境教育リーダー (登録者数 40 人)	24 件 (1523 人)	19 件 (1220 人)	44 件 (2311 人)
環境保全アドバイザー (登録者数 21 人)	38 件 (2604 人)	39 件 (2780 人)	26 件 (2020 人)

平成 21 年度は 3 月 15 日時点

総合的環境副教材の教員用手引書の作成（一部報告済）

小学生を対象に配布している「札幌市総合的環境副教材」を、ごみの排出ルール変更などに伴い、修正を加えました。その副教材の教員用手引書について、副教材作成ワーキンググループ委員に作成を依頼し、4 月初旬には限定ホームページで公開する予定です。（一般公開は行いません。）

今後の方針

教育委員会 札幌市教育センターで実施している教員を対象とした環境教育研修において、環境プラザでの研修を今後も行う他、現在環境プラザの環境相談業務で協力を得ている「市民団体 NPO 法人環境活動コンソーシアムえこらぼ」などの市民団体等と連携し、市民を対象とした様々な講座を行うことで、人材の育成を行います。

また、環境教育リーダー・環境保全アドバイザーのパンフレットを統一（別紙のとおり）し、制度活用事例を掲載するなど、より利用しやすくする工夫を行います。

(2) 情報の共有・活用

環境プラザホームページにおける情報提供（報告済）

今年度ブログの開設を行うなどリニューアルした環境プラザホームページで情報提供を行いました。

かんきょう元気通信（一部報告済）

上田市長から各市立小学校、中学校、並びに高等学校の児童会・生徒会の代表の皆さんに、直接手紙を届ける「かんきょう元気通信」を7月から始めました。

第2号、第3号（別紙のとおり）については、11月と3月に送付しました。

かんきょう元気新聞（一部報告済）

市立小学校5～6年生の全クラスを対象として、10月から環境に関する壁新聞を発行しています。発行にあたっては、高坂委員、三木委員、宮森委員に札幌市環境教育基本方針推進委員会を代表して編集にあたっていただいております。

第2号<冬号>を1月に発行し、第3号<春号>を新年度4月に発行予定です。（別紙のとおり）

環境教育関連施設連携事業の実施（一部報告済）

市内12の環境関連施設の施設担当者でプロジェクト会議を開催し、環境プラザを中心として施設間でより一層連携し、情報を共有・活用するとともに、効果的な環境教育を行うための事業について検討しています。

1つの成果として、来年度実施の校外学習用バス貸出事業へ向けて、環境施設を活用した校外学習のモデルコース（別紙のとおり）を作成しました。

環境教育関連施策・事業一覧（平成21年度版）の作成

環境教育関連施策の進行状況や今後の方向性を示すとともに、札幌市の各部局で行われている環境教育に関係する事業について取りまとめた冊子を作成しました。（別紙のとおり）

こども環境サミット札幌の参加者へ手紙の送付（報告済）

平成20年6月27日～29日に開催した、「こども環境サミット札幌」に参加した世界11カ国102人のこどもたちへ本事業に参加した後の活動について教えてもらうよう、市長から手紙を送りました。（返事の一部、別紙のとおり）

今後の方針

リニューアルを行った環境プラザのホームページで、ブログやGoogleカレンダーを活用したイベントカレンダー（えこぼろカレンダー）など、効果的な情報提供を行います。

(3) プログラムの作成

総合的環境副教材の修正・教員用手引書の作成（報告済）

今年7月のごみ排出ルールの変更に伴い、関連部分をワーキンググループ委員に修正していただいている他、高学年についてはエネルギー環境教育を取り入れた内容に修正し、平成22年4月に新1・3・5年生となる児童に配布を行う。（教員用手引書については再掲）

今後の方針

環境教育プログラム・総合的環境副教材の周知を、学校における活用事例などを収集・発信することで進めていきます。また、校外学習で活用できるような、環境教育のための施設紹介の充実や、校外学習モデルコースの充実を行います。

(4) 機会づくり・場づくり

校外学習用バス貸出（一部報告済）

環境に関する体験学習の場を提供することを目的に、平成19年度から小学校を対象に環境教育に関する校外学習用バスの貸出事業を行っています。今年度は、のべ69校に対し152台のバスを貸出しました。

応募校数と採用校数・校数はのべ数/()内は実施校　・バス利用台数はのべ数/()内はCNGバス

	H19年度	H20年度	H21年度
応募校数	71校	77校	71校
採用校数	44校(43校)	56校(54校)	69校(66校)
バス利用台数	94台(0台)	115台(23台)	152台(18台)

校外学習の見学先や学習内容、エコライフレポートへの取り組み率などを考慮し、環境局・教育委員会で採用校を決定

主な見学先(H21年度実績)

	分野	見学先	見学校数(のべ)
1	ごみ減量・リサイクル	清掃工場(白石、駒岡、発寒、篠路)	32
2	ごみ減量・リサイクル	札幌リサイクル団地、資源選別センター	23
3	ごみ減量・リサイクル	リサイクルプラザ、石狩「環生舎」	4
4	ごみ減量・リサイクル	モエレ沼公園、山本処理場	4
5	水とみどり	水道記念館	16
6	水とみどり	浄水場(藻岩・白川)	1
7	水とみどり	下水道科学館	5
8	水とみどり	水再生プラザ、水処理センター	5
9	水とみどり	ダム(豊平峡、定山溪)	7
10	食育	農園(丘珠・新篠津)、さとらんど、北方自然教育園	4
11	自然・生態系	円山動物園	2
12	自然・生態系	ピリカコタン	1

環境教育施設バスツアー（一部報告済）

複数の環境教育施設を天然ガスバスで回って体験学習を行うバスツアーを、環境教育情報誌を発行する企業との共催で昨年度より行っています。今年度は市内の小学生を対象に5回実施し、のべ約150人の子どもたちとその保護者（今年度5回目は親子を対象に実施）が参加しました。

環境教育へのクリック募金（報告済）

今年度は平成20年度のクリック数実績に対し、192万円の募金が集まりました。今年度は対象を中学校にも広げ、28の小中学校に手回し発電機や風力発電機キットなどの教材を提供した他、フードリサイクル用の野菜の苗を環境教材の対象として提供しました。

環境プラザにおける総合学習支援（報告済）

環境教育リーダーの派遣や環境プラザの展示物を活用し、小中学校の総合学習の時間における学習の支援を進めているほか、エコ+1（エコプライチ）というシリーズ物のイベントや児童会館などのイベントへの出張などの自主事業を行いました。

かんきょうみらいカップ2009（報告済）

フットサルなどのスポーツ・レクリエーションを通じて、環境クイズやごみ分別リレーなど、環境活動に楽しく取り組んでもらうイベントを今年8月6日に実施しました。また、環境に関する得点の上位チームが、11月29日に開催された札幌ドーム試合の前座試合として、天然芝でサッカーの試合を行いました。

さっぽろこども環境コンテスト（一部報告済）

小中学生を対象にした、環境活動コンテスト「さっぽろこども環境コンテスト2009」を、11月28日（土）に札幌エルプラザで開催しました。（別紙のとおり）

[審査員]

審査員長	北海道大学大学院教育学研究院 教授	大野 栄三 氏
審査員	北海道札幌藻岩高等学校 校長	大川 徹 氏
審査員	札幌市環境局環境都市推進部長	宮田 淳

[発表団体]

小学生の部	中学生の部
平岡南小学校（最優秀賞）	北野中学校（最優秀賞）
川北小学校（優秀賞）	宮の森中学校（優秀賞）
平岡小学校	平岸中学校（特別賞）
山の手小学校	発寒地区子ども会連絡会
	常盤中学校

今後の方針

環境プラザを中心として、環境関連施設における連携事業（現在、連携会議において検討中）を実施します。また、既存事業を推進していきます。